

朝  
日  
賞

—  
受賞の人びと  
—

朝日新聞文化財団

二〇一九年度

# 朝日賞

学術、芸術などの分野で傑出した業績をあげ、わが国の文化、社会の発展、向上に多大の貢献をされた個人または団体に贈ります。一九二九年（昭和四年）に朝日新聞創刊五十周年記念事業として創設しました。一時、文化、福祉、体育の3部門に分かれていましたが一九七五年度に朝日賞を総合賞とし、福祉、体育はそれぞれ独立した賞になりました。受賞者のなかから後年、ノーベル賞や文化勲章を受けられた方も多く出ています。一九九二年に財団法人朝日新聞文化財団（現公益財団法人朝日新聞文化財団）が授賞事業を引き継ぎました。全国の大学、研究機関、有識者らに候補推薦を依頼し、朝日新聞文化財団朝日賞選考委員会で受賞者を選考します。毎回翌年一月に贈呈式を行い、正賞と副賞を贈ります。第一回以来の受賞者は合わせて四百七十四人と二十八団体になります。

「朝日賞特別賞」は、朝日賞本賞以外の分野において、長年にわたり国際的または社会的貢献が著しく、傑出した業績をあげた個人・団体を対象に朝日新聞社内にて選考しました。一九九五年度に「朝日賞スポーツ特別賞（青木半治氏）」、一九九九年度に「朝日賞特別賞（国際貢献）（緒方貞子氏）」、二〇一六年度に「朝日賞特別賞（国際貢献）（日本原水爆被害者団体協議会）」、二〇一九年度に「朝日賞特別賞（写真界への貢献）（田沼武能氏）」が受賞し、正賞と副賞が贈られました。

朝日賞（文化賞部門） 1929年度～1974年度 .....

朝日賞 1975年度～ .....

索引 .....

## （敬称略）※氏名の頭の「故」は受賞内定時から発表までの間に亡くなった方

### 朝日賞（文化賞部門） 1929年～1974年度

1929年度

- 坪内逍遙 沙翁全集翻訳完成および演劇博物館建設
- 栖原豊太郎 特超高速活動写真撮影機の発明製作
- 前田青邨 第十六回日本美術院展覧会出品「洞窟の頼朝」

1930年度

- 佐佐木信綱 「万葉秘林」の刊行完成
- 山本忠興 テレビジョン機の研究製作
- 川端龍子 第二回青竜社展覧会出品「魚紋」及び「草炎」
- 内田実 安藤広重研究（著書「広重」）

1931年度

- 星野正三郎・山本三六郎 化学純絹糸の研究完成

1932年度

- 高楠順次郎 大正新修大蔵経の編修刊行完成
- 満谷国四郎 第十三回帝展出品画「緋毛氈」
- 鈴木純一 スンプ「鈴木式万能顕微印画法」の発明
- 中西金作 電気紋織機及び電気紋紙製造機の発明製作

1933年度

- 伊原敏郎 「日本演劇史」近世日本演劇史「明治演劇史」三部作出版
- 横山大観 第二十回日本美術院出品画「虫の首」

1934年度

- 田中耕太郎 「世界法の理論」の刊行完成
- 高松亭 光学硝子の研究
- 嘉納治五郎 運動関係功労者

1935年度

- 島崎藤村 小説「夜明け前」完成
- 拔山平一 水中通信（水中超音波搬送式電話）の研究
- 木村栄 緯度観測

1936年度

- 牧野富太郎 日本植物分類の研究
- 岡部金治郎 極超短電波の研究
- 徳永重康 第一次満蒙学術調査研究団報告書完成

1937年度

- 田中正平 純正調の研究
- 飯沼正明・塚越賢爾 亜欧連絡飛行世界記録

1938年度

- 細谷省吾 細菌毒素の精製とその応用
- 藤田雄蔵・高橋福次郎・関根近吉 周回飛行距離世界記録並びに一万\*速度国際記録

1939年度

- 橋本関雪 「軍馬一題」
- 小磯良平 「南京中華門戦闘図」と「兵馬」
- 火野葦平 戦争文学三部作の完成
- 河瀬真小川 亨・横田俊雄 石炭直接液化法の研究

1940年度

- 深山達蔵 阿部良之助 石炭直接液化法の研究
- 工藤宏規 石炭直接液化法の研究
- 塚田太郎 電波伝播用機器の発明
- 中尾純利・吉田重雄・下川一・佐伯弘・佐藤信貞・八百川長作 世界一周飛行の完成

1941年度

- 石原忍 色盲検査表の研究
- 川合玉堂 絵画「彩雨」
- 佐藤清蔵 銅造「和氣清麻呂公像」
- 滝田精一 「国華」による東洋美術文化の宣揚
- 柳田国男 日本民俗学の建設と普及
- 山田耕祐 交響楽運動と創作活動

1941年度

- 釘宮馨・有馬宏・加納俊二 国鉄関門隧道の貫通工事
- 久保田豊・佐藤時彦・玉置正治 水豊堰堤の建設



三好松吉・風岡憲一郎  
水豊発電所、水車並びに発電機、変圧器の設計、製作  
安田鞞彦  
絵画「黄瀬川の陣」

1942年度  
藤田嗣治  
作戦記録画「シンガポール最後の日」その他  
中村研一  
作戦記録画「コタ・バル」  
「海ゆかば」の作曲  
岩田豊雄  
小説「海軍」  
日本映画社  
戦記映画「マレー戦記」その他  
吉田栄三・吉田文五郎  
舞台生活六十年  
電気用金属材料の研究  
仁科存  
結核の化学療法に関する研究  
長谷川秀治  
結核の化学療法に関する研究  
酒井由夫・藤沼憲二・楊徳  
慢性麻薬中毒並びに一般中毒性疾患の治療法に関する研究

1943年度  
田中館愛橘  
日本航空発達への貢献  
飯盛里安  
稀元素の研究  
成瀬政男  
菌車の研究  
川田順  
愛国歌の研究  
諸橋轍次  
大漢和辞典の編纂刊行  
宮本三郎  
作戦記録画・海軍落下傘部隊「メナド」奇襲

1944年度  
仁科芳雄  
元素の人工変換及び宇宙線の研究  
瀬尾貞信  
動脈注射療法の研究  
東亜考古学会  
(代表者 島村孝三郎)  
蒙古の考古学的研究  
能楽による文化貢献  
梅若万三郎  
能楽による文化貢献  
小俣寿雄・田中久義・島崎清・坂本定治・森松秀雄・羽広石雄  
周回航統距離世界記録並びに速度国際記録

1945年度  
中止  
1946年度  
朝永振一郎  
中間子理論の発展と超多時間理論  
中原和郎  
ビタミンLの研究

1954年度  
鈴木大拙  
日本仏教思想の海外紹介と「鈴木大拙選集」  
知里真志保  
「分類アイヌ語辞典」  
岡治道・隈部英雄  
肺結核のエックス線診断学への貢献と「肺結核症のX線読影」の刊行  
坪井忠二  
重力測定に基づく地下構造の研究

1955年度  
吉川英治  
小説「新・平家物語」  
柳沢謙・海老名敏明・大林容二・戸田忠雄・河盛勇造  
乾燥BCGワクチンの製造方法に関する研究  
三宅静雄・上田良二  
結晶による電子線回折の動力学的理論

1956年度  
梅原龍三郎  
第三十回国画会出品作「富士山凶」  
故池田亀鑑  
「源氏物語大成」(八巻)の完成  
西岡虎之助  
「荘園史の研究」(上下巻三冊)の完成  
須藤俊男  
火山物質起源の粘土の鉱物学的研究  
木原卓三郎  
脈管外通液路系に関する研究

1957年度  
竹内理三  
「平安遺文」の完成  
戸田宏  
位相幾何学におけるホモトピー論の研究  
金栗四三  
多年マラソン界に尽くした功績

1958年度  
農業発達史調査会(代表者 東畑精一)「日本農業発達史」の完成  
松村武雄  
「日本神話の研究」の完成  
梅沢浜夫  
抗生物質の研究、とくにカナマイシンの発見  
安松京三  
天敵利用による害虫防除の研究  
飛田忠順  
学生野球への功勞

1959年度  
柳宗悦  
日本民芸館の創設と民芸運動に尽くした功績  
市川寿海  
(本名 太田照造)  
歌舞伎における新しい芸風の創設  
高橋秀俊・後藤英一  
パラメトロン電子計算機の完成  
江崎玲於奈  
エサキ・ダイオードの発明

1947年度  
貝塚茂樹  
古代中国史の研究  
前進座  
演劇文化運動への貢献  
増山元三郎  
標本抽出による推計理論の発展と応用

1948年度  
谷崎潤一郎  
小説「細雪」  
日映教育映画部  
科学教育映画への貢献  
坂田昌一  
二中間子の仮説

1949年度  
原田慶吉  
楔形文字法の研究  
林謙三  
東洋古代音楽の研究と正倉院古楽器の復元  
宮地政司  
経度変化の研究

1950年度  
羽原又吉  
日本漁業経済史の研究  
水野清一・長広敏雄  
雲岡石窟の研究  
今井功  
高速気流の理論的研究  
三木茂  
メタセコイアの発見

1951年度  
日本交響楽団(現NHK交響楽団)  
二十五年間にわたる日本音楽界への貢献  
野副鉄男  
ヒノキチオールの研究  
吉田富三  
吉田肉腫の研究

1952年度  
中国農村慣行調査委員会(代表者 仁井田陞)  
中国農村慣行調査  
岩崎憲  
アゾトメトリの研究  
黒津敏行  
自律神経中枢の研究

1953年度  
辻善之助  
日本仏教史の研究  
岡村実造・小林行雄  
慶陵の研究  
本川弘一  
多変数関数論の研究  
色の感覚に関する研究

1960年度  
岩沢健吉  
位相的方法を用いた整数論の研究  
山村雄一  
結核菌の生化学的研究

1961年度  
津田左右吉  
歴史学研究における業績  
八杉貞利  
多年にわたるロシア語教育の業績と「岩波ロシア語辞典」の完成  
中村岳陵  
四天王寺金堂壁画の完成  
山下摩起  
四天王寺五重塔壁画の完成  
松本達郎  
日本並びに北太平洋地域の白亜紀アンモナイトの研究  
加藤敏夫  
物理学の近代解析的研究  
奥貫一男  
チトクロームの研究

1962年度  
長谷川伸  
「長谷川伸戯曲集」の完結と大衆文学並びに演劇に尽くした多年の功勞  
前川国男  
東京文化会館ほか一連の作品に示された近代建築への貢献  
公田連太郎  
漢学に対する深い学殖とすぐれた労作  
田淵寿郎  
名古屋市の都市計画を実施した功績  
勝木保次  
聴覚の神経機序の研究  
大阪大学磁気理論研究グループ(代表者 永宮健夫)  
磁性体の理論的研究  
高原滋夫  
無カタラーゼ血液症の発見とその研究

1963年度  
梅原末治  
考古学に対する深い学殖とすぐれた労作  
坂本繁二郎  
「龍面と謡本」にいたる一連のすぐれた画業  
渋谷敬三  
民族学、日本民俗学に対する貢献  
花柳章太郎  
完成された演技と多年の演劇界への貢献  
松島与三  
連続群論の研究  
福井崇時・宮本重徳  
放電箱の研究と開発  
黒部川第四発電所建設事務所(代表者 野瀬正儀)  
黒部川第四発電所の建設  
岡部平太  
マラソンを中心に多年スポーツ界に尽くした功勞

1963年度  
国史大系編修会(代表者 丸山二郎)  
「新訂増補国史大系」六十巻の完成  
善竹弥五郎  
卓抜な演技力と能楽界への貢献



美土路昌一 民間航空五十年の発展に貢献した功績  
伊藤薫 長年にわたる舞台装置家としての功績  
故楠本正継 「宋明時代儒学思想の研究」の完成

古在由秀 人工衛星の運動の研究  
大野克郎 多端子回路網の構成理論に関する研究  
木本誠二 心臓血管外科における業績  
榊原 任 日本における労働科学の建設と発展に尽くした業績  
暉峻義等 日本における労働科学の建設と発展に尽くした業績

1964年度

石田茂作 日本仏教考古学への貢献  
中勤助 「中勤助全集」の完結と多年にわたる文学上の業績  
大佛次郎 「パリ燃ゆ」の完結と多年にわたる文学上の業績  
棟方志功 日本の木版画に尽くした功績  
丹下健三 国立競技場代々木競技場の建築  
株式会社東京シネマ(代表 岡田桑三)  
科学映画製作における国際的業績  
国鉄新幹線を開発した技術グループ(代表者 島秀雄)

1965年度

早石修 酸素添加酵素の発見並びに研究  
津田恭介・平田義正・仁田勇・横尾晃  
フグ毒の単離と化学構造の決定  
藤野恒三郎・滝川巖・福見秀雄・坂崎利一  
腸炎ビブリオの発見と研究

1966年度

部落問題研究所(代表者 奈良本辰也) 部落問題研究における業績  
仁井田陸 中国法制史研究への貢献  
土屋喬雄 「渋沢栄一伝記資料」の完成と日本近代経済史の資料集  
成への貢献  
矢代幸雄 日本美術についての広範な啓発活動  
黒沢明 日本映画を国際的地位に高めた功績  
林忠四郎 元素の起源と星の進化に関する研究  
中沢良夫・佐伯達夫 アマチュア野球、ことに高等学校野球  
の育成、発展に多年尽くした功績

1966年度

沢瀉久孝 「万葉集注釈」全三十巻の完成  
林武修 「裸婦」にいたる具象絵画の業績  
滝沢修 「セールのスマンの死」などの演技と新劇界への貢献

1972年度

林達夫 西洋精神史及び現代文明に対する研究と評論活動の業績  
日本中国文化交流協会(代表者 中島健蔵)  
長年にわたる日中文化交流への貢献  
水谷八重子 国立劇場「滝の白糸」の演技及び近年の演劇活動  
市川房枝 多年にわたる婦人の地位向上と有権者の政治教育に尽く  
した功績

1973年度

朝倉昌・飯野徹雄 細菌べん毛の形成に関する研究  
林秀男 炎症の発生と抑制の機構に関する研究  
坪田譲治 児童文学における長年の業績と童話雑誌「びわの実学校」  
十年の実績

1974年度

倉石武四郎 中国語の研究と教育及び辞典の編纂  
末永雅雄 多年にわたる日本考古学界への貢献  
石坂公成・石坂照子 免疫グロブリンEの発見  
早川幸男 高エネルギー天体現象の理論的及び観測的研究

1975年度

荒畑寒村 多年にわたる社会運動の実践と著作活動の功績  
山本安英 七百年を超える「夕鶴」公演を含む半世紀にわたる演劇  
活動  
桑原武夫 人文科学の共同研究を組織・指導し諸科学の発展に尽く  
した功績  
山川民夫 糖脂質の生化学的研究  
大沢文夫 生体運動の生物物理学的研究

朝日賞 1975年度

1975年度  
大岡昇平 「大岡昇平全集」の完結と戦後の文学への貢献  
新藤兼人 独立プロによる映画製作の実績  
萩原雄祐 天体力学の集大成  
菊池喜充・和賀井敏夫 超音波診断法を創始した功績  
東北大学金属材料研究所付属材料試験炉利用施設研究グループ  
(代表者 矢島聖使) 耐超高熱・超強度連続繊維の合成

荻野久作 オギノ学説による人口問題への貢献  
江上不二夫 リボヌクレアーゼT1に関する研究  
熊本大学医学部水俣病研究班(代表者 忽那将愛)  
水俣病に関する研究

1967年度

福島正夫および「家」制度研究会  
日本資本主義と「家」制度に関する研究  
高田修 「仏教の起源」にいたる仏教美術史の研究  
竹本常松・中西香爾 植物からの昆虫変態ホルモンの発見  
広中平祐 代数多様体の特異点の還元

1968年度

岩生成一 外国史料の導入によって日本史研究に新分野を開いた功  
績  
杉村春子 「女の一生」の全国巡演をはじめとする多年にわたる演  
劇活動  
江橋節郎 カルシウムを中心とした筋収縮機構の研究  
宮地伝三郎・今西錦司を代表とする霊長類研究グループ  
霊長類(とくにニホンザル)に関する研究

1969年度

藪内清 「中国の天文暦法」など中国の科学技術史研究の功績  
佐藤幹雄・小松彦三郎 超関数の理論と応用の功績  
白壁彦夫・市川平三郎・熊倉賢二  
胃のX線二重造影法の開発とそれによる早期胃癌診断  
技術確立の功績

1970年度

大塚久雄 経済史研究並びに社会科学方法論における功績  
吉川幸次郎 中国文学研究の功績  
長倉三郎 分子化合物の電子論的研究  
岡崎令治 DNA複製の機構に関する研究

1971年度

渡辺一夫 ルネサンスを中心とするフランス文学研究の業績  
福山敏男 日本建築史の研究  
大井次三郎 「日本植物誌」の完成にいたる植物分類学への貢献  
岡田善雄 細胞融合現象の解析

1976年度

斉藤喜彦 遷移金属錯体の構造に関する研究  
金井清 地震動特性の耐震設計への応用に関する研究  
名取礼二 名取の筋繊維の創出と研究  
服部新佐 日本の蘚苔類学および植物分類学への貢献

1977年度

中野重治 小説、詩、評論など多年にわたる文学上の業績  
千田是也 長年にわたる現代演劇への貢献  
静止衛星開発グループ(代表者 宇宙開発事業団理事長 松浦陽恵)  
技術試験衛星II型の静止軌道への打ち上げ  
門司正三・佐伯敏郎 群落光合成理論の開拓と展開  
伊藤清 確率過程の研究

1978年度

金関丈夫 南島の人類学的研究の開拓と弥生時代人研究の業績  
朝比奈隆 交響楽運動への貢献  
土門拳 「古寺巡礼」をはじめとする写真家としての多年の業績  
藤田哲也 中枢神経系細胞発生の研究

1979年度

小松茂美 「平家納経の研究」の完成を含む古筆研究体系化の業績  
近藤淳 希薄磁性合金の電気抵抗最小に関する理論の確立  
B型肝炎研究グループ(代表者 織田敏次)  
ウイルス肝炎B型の総合的研究  
三木安正 精神薄弱児・者の学術研究と教育実践に尽くした功績  
田畑政治 長年にわたる日本水泳界への貢献とオリンピック運動推  
進の功績

1980年度

野上弥生子 「野上弥生子全集」にいたる現代文学への貢献  
財団法人・大原美術館 五十年に及ぶ常設美術館活動  
「はくちょう」衛星観測チーム(代表者 小田稔)  
「はくちょう」衛星によるX線天体の観測  
蟻田功 天然痘の根絶に尽くした功績  
1981年度  
石川淳 「石川淳選集」全十七巻にいたる現代文学への貢献  
竹内外史 解析学の基礎付けなど数学基礎論における諸研究  
葛西森夫 先天性胆道閉塞症の治療法の確立



利根川 進 免疫遺伝学への貢献Ⅱ抗体遺伝子の情報発現と制御の研究

本 庶 佑 同Ⅱ免疫グロブリン遺伝子の研究

多田 富 雄 同Ⅱ免疫抑制T細胞と抑制因子の解明

1982年度 中野 好 夫 著作と実践を通しての平和と民主化への貢献

井筒 俊 彦 イスラム思想・文化の研究と比較思想史の研究

司馬 遼太郎 歴史小説の革新

本多 健一・藤 嶋 昭 半導体を用いる水の光分解の研究

沼 正 作・中 西 重 忠 多ホルモン前駆体の構造・遺伝子進化に関する研究

1983年度 佐多 稲 子 長年の作家活動による現代文学への貢献

亀倉 雄 策 現代日本のデザインを世界的水準に高めた功績

源 豊 宗 日本美術史研究における多大の業績

波 辺 正 毅 優れた閃鏡の開発と進歩への貢献

垣内 史 朗 カルモジュリンとカルモジュリン結合たんぱく質の発見

花房 秀三 郎 RNA型腫瘍ウイルスの研究と細胞がん化機構の解析

1984年度 井上 靖 長年にわたる文学上の業績と国際文化交流への貢献

武 満 徹 世界的な音楽の創造

斉藤 義 重 多年の実験的創作活動による現代美術への貢献

NHK「シルクロード」制作スタッフ テレビ番組「シルクロード」の制作

西沢 潤 一 光通信と半導体の研究

高橋 理 明 水痘ワクチンの開発

1985年度 丸山 真 男 日本政治思想史研究の向上と、その国際的評価ならびに政治学上の長年の研究業績

木下 順 二 「夕鶴」「子午線の祀り」など、長年にわたる劇作活動

小沢 征 爾 世界の音楽界における活躍と業績

宮川 一 夫 映画カメラマンとしての長年にわたる日本映画への貢献

林 巖 雄 半導体レーザーによる常温・連続発振

西塚 泰 美 ホルモンおよび神経伝達物質の作用機構に関する研究

1990年度 吉田 秀 和 わが国における音楽批評の確立

島田 修二 郎 東洋美術史研究における世界的貢献

箱守 仙一 郎 種々の糖脂質の構造と機能の研究

宮 脇 昭 「日本植生誌」の完成

佐川 真 人 新永久磁石の発明

1991年度 三宅 一 生 「衣」を通してファッションを芸術の域にまで高めた業績

安岡 章太郎 一九五〇年代より今日にいたる現代文学への貢献

加藤 楸 邨 長年の俳文学における業績

坪井 清 足 大規模遺跡の調査発掘法と考古学における学際および国際研究の推進

志村 五 郎 整数論の研究

真崎 知 生 エンドセリンの発見

1992年度 ※朝日新聞文化財団が事業を引き継ぐ

横 文 彦 長年にわたる都市デザインと現代建築への貢献

若杉 弘 わが国を代表する国際的指揮者としての活躍と業績

大久保 利 謙 日本近代史学の確立と基礎資料の蒐集・保存に貢献

陳 舜 臣 中国と日本の歴史を踏まえた文学作品を通して日本文化に大きな貢献

坂上 昭 一 ハナバチ類の進化とその比較社会学的研究

野 依 良 治 ハナバチ類の進化とその比較社会学的研究

1993年度 加藤 周一 戦後続けてきた旺盛な評論と創作活動

西田 龍 雄 西夏文字解読など言語学研究の業績

藤沢 周 平 『藤沢周平全集』をはじめとする時代小説の完成

山田 五十 鈴 映画、演劇出演を通じての大衆文化への貢献

金 森 博 雄 地震発生の基礎物理の研究とその地震防災への応用

竹市 雅 俊 細胞接着因子カドヘリンの発見と機能の解明

1994年度 堀田 善 衛 人間と芸術を時空をこえて凝視した、長年の文学的業績

大江 健三 郎 核状況下、困難な主題を直視し、魂の救済まで描き出した真摯な創作活動

安藤 忠 雄 人間と自然を問い直す一連の建築作品

鶴見 俊 輔 現代思想、大衆文化論への貢献と在野思想の確立

1986年度 川喜多 かしこ 日本映画の海外普及と映画を通じての国際文化交流

中村 幸 彦 「中村幸彦著述集」に至る日本近世文学研究への多大な業績

木村 資 生 集団遺伝学の研究、とくに分子進化の中立説の提唱

外村 彰 電子線ホログラフィーの開発とアハラノフ・ボーム効果の実証

高月 清・三 好 勇 夫・日 沼 頼 夫・吉 田 光 昭 成人T細胞白血病の研究

富沢 純 一 遺伝子複製機構の研究、とくにRNAによる複製の制御の発見

1987年度 磯崎 新 建築を通しての現代文化への貢献

手塚 治 虫 戦後漫画とアニメ界における創造的な業績

森 英 恵 日本ファッション界のパイオニアとしての功績

梅 棹 忠 夫 国立民族学博物館創設・運営による民族学の発展と普及への貢献

柏原 正 樹・河 合 隆 裕 代数解析学の研究

神岡 観測グループ(代表者 小柴昌俊)

超新星からのニュートリノ検出

松尾 寿 之 超微量ペプチド研究法の開発と新しい生理活性ペプチドの発見

1988年度 朝倉 良 撰 優れた舞台空間の創造を通して現代演劇に貢献

佐藤 忠 宏 「野間宏作品集」全十四巻をはじめとする文学への貢献

淀川 長 治 長年の映画評論、紹介活動による日本映画界への貢献

山口 誓 子 現代俳句の革新と普及に貢献

赤池 弘 次 統計学の研究とくにAICの理論と応用

岸本 忠 三 分子免疫学への貢献

谷口 維 紹 分子免疫学への貢献

1989年度 三岸 節 子 六十余年の剛直な画業と女性画壇の向上に努めた功績

松本 清 張 社会派推理小説の創始、現代史発掘など多年にわたる幅広い作家活動

森 下 洋 子 世界にはばたくバレリーナとしての実力と実績

林屋 辰三 郎 日本史および日本芸能文化史の研究における業績

清川 正 二 戦後の日本水泳復興と国際スポーツ発展に尽くした功績

豊島 久真 男・山 本 雅 子ロシキナーゼ群が遺伝子の研究

川崎 富 作 川崎病に関する研究

1995年度 谷川 俊 太郎 現代詩を始め児童文学、言葉遊びなど幅広い分野での創作活動

故丸 木 位 里・丸 木 俊 原爆、戦争、公害などをテーマに描き続けた長年の画業

桂 米 朝 上方落語の復活・継承・全国展開と後進の育成

大林 太 良 日本民族文化の形成に関する卓越した研究

真鍋 淑 郎 気候モデルの開発及び地球温暖化の研究

廣川 信 隆 神経細胞骨格と細胞内の物質輸送に関する先駆的研究

1996年度 大岡 信 長期にわたる「折々のうた」の連載と詩作、文芸批評における優れた業績

内 田 光 子 優れた解釈による国際的な演奏活動

山田 洋 次 「男はつらいよ」四十八作など多年にわたる日本映画界への貢献

白川 静 漢字学と中国古典研究の画期的業績

飯島 澄 男 「カーボンナノチューブ」の発見

荒木 不二 洋 物理学と数学の境界領域の開拓

1997年度 ドナルド・キーン 長年の日本文学の研究と海外紹介の功績

河合 隼 雄 心理学の画期的な研究と臨床実践並びに日本文化論における独自の業績

田中 一 光 日本の美意識をベースにした国際的なデザイン活動

吉田 玉 男 文楽人形を通して古典芸能を活性化させた優れた舞台活動

伊賀 健 一 面発光半導体レーザーの研究

長田 重 一 細胞死アポトーシスの分子機構に関する研究

1998年度 まど みちお 長年にわたる優れた子供の詩や童謡の詩作活動

山根 有三 「山根有三著作集」完結にいたる日本美術史、とくに中世・近世絵画史における功績

鈴木 治 「走泥社」を長年運営し陶芸界に新しい領域を開いた功績



スーパードカミオカンデ観測グループ(代表者 戸塚洋二)

柳田 敏雄 ニュートリノに質量があることの発見  
一分子計測技術の開発と生体分子運動の研究

1999年度

馬場あき子 長年にわたる優れた作歌、著述活動と、伝統文化継承にかかわる業績

蜷川 幸雄 国際的な場を含む、長年にわたる独自の演出活動の業績

鶴見 和子 社会学と民俗学にかかわる、アカデミズムの枠を超えた研究業績と、『鶴見和子曼荼羅』の刊行

三輪 哲二・神保 道夫 可積分系の代数解析的研究  
ビタミンDと骨代謝に関する研究

2000年度

井上ひさし 知的かつ民衆的な現代史を総合する創作活動  
世界の戦後美術に多大な影響を与えた前衛的創作活動

草間 彌生 天衣無縫の優れた舞台で、狂言を庶民の芸能として普及させた功績

赤崎 勇・中村 修二 青色発光素子の研究と開発  
染色体を次世代に伝える仕組みの研究

2001年度

石牟礼 道子 環境破壊による生命系の危機を訴えた創作活動  
優れたアニメーション映画の製作

樋口 隆康 先駆的な考古学研究と東西文化交流の解明  
新しい高温金属超電導体の発見

十倉 好紀 強相関電子物質の研究

2002年度

川久保 玲 常識を破るデザインで世界のモードを先導し続ける功績  
経済小説の分野を確立、組織と人間を描いてきた業績

加藤 和也 革新的な有機金属化学反応の開発

2003年度

平山 郁夫 画家としての長年の業績と、文化遺産保存への国際的貢献  
『輝く日の宮』にいたる多年の文学的業績

神原 秀記 高速DNA解読装置の開発  
大脳の記憶メカニズムの解明

2008年度

水木しげる 妖怪や戦争を題材とした幅広い創作による漫画文化への貢献  
戦争へと至った昭和史の実相に迫るノンフィクションを著した業績

澤地 久枝 日本に不条理劇を定着させた長年にわたる優れた劇作活動  
細胞内分解系オートファジーの分子機構の解明

2009年度

伊東 豊雄 現代建築における空間表現の可能性を広げた業績  
新しい現代演劇の開拓と海外交流の推進

野田 秀樹 シンプルレクティック幾何学の研究

豊島 賢治 カルシウムポンプ作動機構の解明

諏訪 元 ラミダス猿人など初期人類の進化に関する研究

2010年度

池澤 夏樹 世界的視野に基づく創作・評論活動と文学全集の編集  
水俣病研究を通じた学際的な「水俣学」の提唱と深化

原田 正純 探査機「はやぶさ」プロジェクトチーム  
(チーム代表・川口 淳一郎 宇宙航空研究開発機構教授、  
産業界代表・萩野 慎二 NEC宇宙システム事業部シニアマネージャー、  
学術界代表・土屋 和雄 京都大学名誉教授)

細野 秀雄 産官学の協力による世界初の小惑星探査往復飛行  
透明酸化物半導体・金属の創出

2011年度

横尾 忠則 常に時代と共振する斬新なグラフィックデザイン・絵画  
の制作

富田 勲 世界を舞台にした作曲家・音響クリエーターとしての活動  
女性学・フェミニズムとケア問題の研究と実践

上野千鶴子 光格子時計に関する研究

香取 秀俊 制御性T細胞の発見を通じた免疫寛容の解明

2012年度

唐 十郎 幻想的な戯曲の創作とテント公演での独創的な舞台制作  
パワー半導体シリコンカーバイドの先駆的研究

松波 弘之 パワー半導体シリコンカーバイドの先駆的研究

神谷 信夫・沈 建仁 光合成における水分解・酸素発生分子機構の解明

2013年度

宝塚歌劇団 宝塚歌劇100年の日本の舞台芸術への貢献

2004年度

中村 稔 『私の昭和史』にいたる、詩作や文学館活動による長年の業績

穂吉 敏子 米国を拠点にピアニスト、ビッグバンドリーダーとしてジャズ発展に寄与した功績

板倉 文忠 携帯電話の基盤となる音声圧縮技術の開発  
たんばく質分解にかかわるプロテアソームの構造と機能の解明

2005年度

林 京子 『林京子全集』(全八巻)にいたる文学活動の業績  
内外の活発な指揮活動で日本の現代音楽作品を幅広く紹介した功績

岩城 宏之 俳優としての業績、及び日本の大道芸、放浪芸を記録・再評価した功績

小沢 昭一 同期現象などをめぐる非線形科学の先駆的研究  
自然免疫における病原体認識の研究

蔵本 由紀 同期現象などをめぐる非線形科学の先駆的研究

2006年度

田辺 聖子 『田辺聖子全集』(全二十四巻・別巻二)完結にいたる文学活動の業績

村上 春樹 世界各国で翻訳され、若い読者を中心に同時代の共感を呼んだ文学的功績  
長年にわたる狂言の優れた上演と幅広い舞台芸術への貢献

野村 万作 小脳内部モデル理論の提案・検証と人型ロボットによる脳機能の解明

川人 光男 生物時計の分子機構に関する研究  
緑色蛍光たんばく質GFPの発見と生命科学への貢献

近藤 孝男 脳機能の解明

2007年度

石井 桃子 「クマのプーさん」などの翻訳をはじめとする日本の児童文学への持続的な貢献  
人形浄瑠璃文楽への多大な貢献と、現役最高峰の大夫としての芸の確立

竹本住 大夫 展と応用に関する研究

宮崎 照宣・湯 新治 トンネル磁気抵抗効果(TMR)の発見と応用に関する研究

福山 幸夫・戸田 達史・遠藤 玉夫 福山型筋ジストロフィーの発見とその類縁疾患における病態の解明  
万能細胞作製に関する新手法の開発と実証

山中 伸弥 万能細胞作製に関する新手法の開発と実証

仲代 達矢 長年の俳優活動と後進育成による演劇・映画界への貢献

小阪 憲司 レビュー小体型認知症の発見  
小胞体ストレス応答の解明

2014年度

坂 茂 斬新な発想に基づく設計活動と建築による被災地支援  
長年にわたって日本のテレビドラマ作りを牽引

山田 太一 抗寄生虫薬の発見・開発と国際保健への貢献

大村 智 抗エイズ薬の発見と治療法確立への貢献

満屋 裕明 指揮者としての国内外における精力的な活動  
戦後一貫して現代俳句を牽引

2015年度

大野 和士 指揮者としての国内外における精力的な活動  
戦後一貫して現代俳句を牽引

金子 兜太 不活性結合の活性化に基づく革新的合成手法の開拓

村井 眞二 減数分裂にかかわる分子機構の解明

2016年度

辻 惟雄 「奇想の画家」の再評価など日本美術史への多大な貢献  
漫画表現の革新と長年にわたる創作活動

萩尾 望都 幾何学的表現論と数理解物理学への展開

中島 啓 幾何学的表現論と数理解物理学への展開

113番元素研究グループ(代表者 森田浩介)  
113番元素ニホニウム(Nh)の発見と命名

2017年度

北川 フラム 里山や島々を舞台にした芸術祭での地域・文化の活性化  
女性の地位を向上させた作家活動や平和への社会活動

瀬戸 内寂聴 トポロジーの物性物理学への導入

甲元 眞人 オレキシンの発見と睡眠・覚醒に関する研究

柳沢 正史 オレキシンの発見と睡眠・覚醒に関する研究

2018年度

木庭 顕 政治・デモクラシー・法の歴史的基盤の探究  
カンヌ映画祭最高賞受賞など、映画表現における達成

2019年度

多和田 葉子 日本語とドイツ語を自在に行き来する越境的な創作活動  
江戸落語の継承と自在な話芸

柳家 小三治 生殖細胞の発生機構の解明と試験管内での作製

斎藤 通紀 植物の受精の仕組みを解明







森本門	村村棟	三三三	宮宮宮	宮宮宮	宮宮宮	宮宮宮	三三	源美滿	滿水水	水水水	三三三	三三三	丸丸丸	丸丸丸	丸丸丸	真
川司	上井方	輪好	脇本	本地	地下	崎崎	川宅	路屋	谷野	谷木	岸木	木木	山山山	山谷	木木	鍋
和弘正	春眞志	哲松勇	重三政	伝保	照一	静一	一豊	昌裕	国清	八重	しげ	節子	安正茂	真二	工才	位淑
俊一三	樹二功	二吉夫	昭徳郎	三郎	三司	駿宣	夫雄	生宗	一明	一郎	一子	重子	正茂	男郎	作一	峻里郎
13 53 77	06 15 64	99 41 86	90 62 43	49 68 03	01 07 85	55 91 83	63 14 32	50 72 08	89 79 50				85 63	94 03	95 95 95	

楊湯	山山山	山山山	山山山	山山山	山山山	山山山	山山山	山山山	柳柳柳	柳柳柳	柳柳柳	柳柳柳	藪安	安八	安矢	矢八	八百	諸森	森森	森森	森森	
浅	本本本	本本本	本本本	本本本	村根	中田	田田田	田田田	下口	川家	田田田	田田田	沢沢	内松	田杉	岡代	島川	橋松	田下			
新	安正	忠三	雄有	伸洋	太耕	五摩	誓民	小充	敏国	正宗	京靱	貞章	幸聖	長	徹	秀浩	洋英					
徳治	英幸	雅興	郎一	三弥	次一	笹鈴	起子	夫治	弘雄	男史	謙悦	清三	彦利	郎雄	使作	次雄	介子	恵				
42 07	74 15 89	30 31 59	98 07 96	14 40 93	60 88 74	19 00 98	40 17 55	59 69 58	41 60 91	65 75 39			43 44	16 89 87								

渡邊	渡邊	若杉	和賀	丸	グ	靈長	類	淀川	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	横山	横山	横山	横山
嘉正	一敏	一敏	一敏	一敏	一敏	一敏	一敏	長光	文秀	富玉	重榮	幸次	英大	俊忠							
典毅	夫弘	夫弘	夫弘	夫弘	夫弘	夫弘	夫弘	治昭	郎和	三男	雄三	郎三	治觀	雄則	晃						
15 83	71 92	75			68			88 86	42 90	51 97	39 42	70 55	33 39	11 64							



2020年

公益財団法人 朝日新聞文化財団

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-1-1  
明治生命館 6階

TEL 03-6269-9441

FAX 03-6269-9442

「朝日賞」事務局

朝日新聞社 CSR 推進部

〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2

TEL 03-3545-0131 (大代表)

ダイヤルイン 03-5540-7453

FAX 03-3541-8999